

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	神田鉄平
所属機関名	獣医学部 獣医学科
職位	教授
在籍年	8 年

教育の責任

獣医学科に属し、主たる教育分野は獣医麻酔科学である。これには動物の痛みの管理と治療や、安楽死といった高度に倫理的な要素を含むことから、獣医療倫理および動物福祉の観点も含めて教育に臨んでいる。また、獣医学教育病院では麻酔科に属しており、獣医麻酔科医としての臨床実践を通じた教育・研究を行っている。これらを踏まえ、研究については獣医麻酔科学および周麻酔期動物看護をテーマとして取り組んでいる。

教育の理念

学部教育においては、獣医学教育モデル・コア・コアカリキュラムにおける獣医麻酔学の内容を全うできることを第一としている。我が国の獣医療における麻酔学は、近年ようやく標準化が進んできた時期にある。本学学生には、世界に通じる獣医麻酔の標準を、正しい知識と思考をもって実践できるよう座学と実習のそれぞれを通じて指導する。また、獣医麻酔が生理学や解剖学、薬理学といった基礎的な科目を基盤に持つことや、前述の通り、獣医療における倫理や動物の福祉に深く関わることを機会あるごとに説いていきたい。

教育の方法・方針

上記の理念を実現するための方針と方法について述べる。

方針 1 「獣医学教育モデル・コア・コアカリキュラムに基づいた教育」

これまで我が国における獣医麻酔は、個人の経験に基づいて実践されることが多く、体系だった教育や指導が十分になされてこなかった。標準的なカリキュラムが示されている今、学生がこれらに基づいた獣医麻酔学を修められることを目指す。

方法① 獣医学教育モデル・コア・コアカリキュラム準拠教科書を採用する。

方法② 講義は、上記教科書の章立てに沿って行う。

方法③ 教科書に記載されている標準的な方法が実際の現場で用いられていることを示す。現場だけで見せにくい手技などについては、動画を作成し公開する。

方針 2 「正しい知識（標準的な知識）の習得」

方法① 獣医麻酔に必要な知識を求める対象には、獣医学教育モデル・コア・コアカリキュラム準拠教科書をはじめとする信頼の厚い教科書や論文等の文献が適切であることを伝える。

方針② インターネットでの情報収集、特にウェブサイトでの検索や AI の利用については、メリットとデメリットがあることを伝える。

方針 3 「正しい思考の習得」

方針① 動物の生理学的パラメーター（心拍数や血圧など）について、数字を丸覚えするのではなく、生理学的意義を学び、生体のダイナミックさを理解するよう、講義や試験を

通じて学生に求める。

方針② 薬物の使用や選択についても、是正すべき状態や疾患と使用すべき薬物を短絡的に結びつけるのではなく、生理学および薬理学的背景に基づいた思考に則って行われるべきものであることを講義および試験を通じて学生に求める。

方針4「獣医療倫理と動物福祉への理解」

獣医麻酔が、獣医療における倫理と動物の福祉に貢献できることを伝える。

方法① 座学や臨床実習（臨床現場）を通じて、麻酔が動物を眠らせるだけの技術ではなく、高度に倫理的かつ動物福祉に重きをおいた学問分野であり、診療科目であることを指導する。

その他として、講義に用いるスライドをPDFにし、講義資料として事前に配布している。また、講義内容は毎回録画・録音のうえ、その動画を自由に視聴できるように公開している（例：<https://youtube.com/playlist?list=PLOJWUnziZDYSc1aA2xlqa5ZT0jrirsziN&si=DTjxo17--gv1V6eR>）。事情があつて欠席してしまった学生や、試験前に復習したい学生などに利用されているようで、一定の視聴回数が記録されている。学生の学習機会を担保するためにもこれを継続する。

教育の成果

本来の教育成果は、臨床現場において適切かつ安全な麻酔・疼痛管理が実践されることであるが、これを評価することは難しい。授業評価アンケートでは回答者が少ないものの、約85%が獣医麻酔科学の授業に「満足」あるいは「ほぼ満足」と回答しており、「授業が時間通り始まっており、メリハリがある授業だと感じた。」「説明がわかりやすくて良かったです。」と肯定的なコメントが回答されていた。これを踏まえて、学生に対する教育の成果は一定の水準にあると考えている。

今後の目標

現在、当学科で獣医麻酔科学分野の教育に充てられている時間では、獣医学教育モデル・コア・コアカリキュラム準拠教科書の内容を完全にカバーすることが難しく、特に講義時間内で解説できる範囲には限りがある。毎年、各章や項目の重みづけを微調整しているつもりではあるが、この是非を見極めることが難しい。現在、獣医学教育コアカリキュラムおよび準拠教科書の改訂作業に関わっていることもあり、今後、限られた時間でどこに重きをおいて教育を実践するか考え続けたい。

根拠資料

- 獣医学教育モデル・コア・コアカリキュラム（全国大学獣医学関係代表者協議会）
- 2025年度授業アンケート秋（前半）「獣医麻酔科学」